



「文部科学大臣賞受賞」

大館市教育委員会 教育長 高橋 善之

今年度、「大館ふるさとキャリア教育」が質量とも大きく進展し、それが高い評価を受け文部科学大臣表彰を受賞するに至った。釈迦内地区の「サンフラワープロジェクト」の総務大臣表彰と併せ、その感謝とさらなるステップアップのために祝賀会を開催したのであるが、当日の挨拶文要旨を掲載し、すべての教職員にも感謝の念をお伝えしたい。

- ・文部科学大臣賞は、外形上は市教育委員会がいただいた形であるが、その実態は、この大館にて「ふるさとキャリア教育」に係わるすべての方々に贈られた賞である。
- ・幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校、特別支援学校、職能開発短大、地域社会、NPO法人、産業界、報道、行政機関、北教育事務所、市教育研究所など、これらすべての力を結集した大館の総合力が、高く評価されたゆえんの賞であると受け止めている。
- ・もともとは、高橋秀一先生の「キャリア教育」と、私の「ふるさと教育」への思いが融合して生まれた「大館オリジナル」の教育理念であり、「大館の未来を切り拓く人財育成」という目的に焦点を定め、「大館盆地全体を教室に、市民一人一人を先生に」というコンセプトをもって、その具現化をめざす教育活動である。
- ・大館の未来を見通すならば、この先、5年や10年は何とか現状を保つであろうが、四半世紀後、半世紀後には、廃墟と荒野が広がる大館盆地になりかねない状況である。大人たちが身を挺して過疎の津波を防いでいる間に、「ふるさとキャリア教育」をもってたくましく人間力を備えた次世代を育み、その若者たちが構築する強大な防潮堤を拠点として、未来への突破口を切り拓こうとする「未来戦略」である。時の未来は、何もせずともやってくるが、人生と社会の未来は自らの手で創り出すべきもの。これが「ふるさとキャリア教育」の真髄あり、教育が担うべき「未来への責任」である。
- ・「サンフラワープロジェクト」は、全国の地方都市のモデルとなり得る実践。第二中学校の防災教育の「内閣府優秀賞」も相俟って、地域には活力と笑顔が溢れている。
- ・ダーウィンは、「進化論」の中でこう説いている。「強いものが生き残るのではない。変化できるものが生き残る」と。私たちが、今、時代に、社会に、そして未来から求められているのは、「変革の勇氣」と「自立の気概」である。
- ・もとより、教育には権力も財力もないが、人が人を変える力が教育力であり、一人一人を変えることにより、いずれ、時代も社会も変革できるものと信じている。
- ・まだまだ道半ば、「坂の上に浮かぶ一片の雲」をめざし、一歩ずつ歩みを進める所存である。「もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」皆様方と、志を一つに、希望の灯火を高く掲げ、ともに前進してまいりたい。